



■活動日：2016年4月23日（土） 10:00~15:00

■参加者：チーム神於山 正会員 12名

■活動内容

- ・今回は、フクロウの観察以外に、暗渠周りの草刈り、シイタケの新しい楢木（ホタギ又はホダギ；シイタケを栽培するときに種菌をつける原木のこと。シイ・クリ・クヌギ・コナラ等を使用）置き場の整地、楢木へのシイタケの植菌と仮伏せという欲張ったメニューに挑戦しました。
- ・久しぶりの草刈りだったのと、竹と違い、クヌギやコナラの楢木はずっしりと重く、運ぶのに少々バテましたが、見事に目標を達成することが出来ました。
- ・参加頂いた12名の会員の皆さん、お疲れ様でした。
- ・植菌の適期は4月末までで、菌糸を蔓延させる仮伏せの適期は2~5月ですから、伏せ方は、仮伏せ本来の横伏せや縦寄せではなく、本伏せの“井桁組”にし、乾燥を避ける為、寒冷紗を掛けました。

■次回の目標

- ・次回（5月14日）は、残りの原木にシイタケを植菌し、記念樹ゾーンの草を刈ります。
- ・また、今回話題になった“昼寝の床作り”や、竹でご飯を炊く“竹飯”にも取り組もうと思います。ネットで「竹飯」で検索すると、色々な炊き方が出ています。お楽しみに。

■暗渠周りの草刈り・・・草刈りは先手必勝です。ここも5月に持ち越すと、草に負け、戦闘意欲が落ちたかもしれません。



- ・暗渠周りの斜面は、神於山シャープの森で最後の植栽できるエリアです。
- ・10年間刈り続けてきた草が枯れて積み、ふわふわで、少し耕せば良い土質が顔を出します。

■作業風景一 1

斜面は5台の刈払機が唸りを挙げて草を刈り、フトン籠の回りは丁寧に鋏でサクサク刈りました。



フトン籠の回りは鋏で・・・



刈払機班、現場に到着



急斜面の刈払機作業は細心の注意が必用です。



暗渠の中も鋏でサクサク。



暗渠をバックに集合写真。皆さん目的を達成し“どや顔”です。お疲れ様でした。

- 暗渠周りの斜面に何を植えるかは、以前から何度か話題になりましたが、イベントの開催が難しかった為、詰めた話にならずに終わっていました。
- 今は、シャープ社友会から、楽しいイベントを、との要望が出ていますから、いよいよ何が適しているか考え時です。

●さて、何を植えましょうか？

●閑話休題・一休み

暗渠周りの草を刈り終え、記念の集合写真の撮影も終わった後のくつろぎのひと時。



展望台で万歳！



この10年で大きく育った馬酔木。



携帯電話する時も、真面目に直立不動。



“剪定した方が良いか？” “そやね”



何やら楽しげに談笑・・・



振り返っても笑顔。

## ■作業風景—2

シイタケの新しい榎木置き場の整地、榎木へのシイタケの植菌、榎木の仮伏せを一気に済ませました。



シイタケの榎木置き場の整地作業。斜面を鋤で崩し、平らにします。



新しい榎木置き場から見た基地



木片にシイタケ菌を繁殖させた種駒。



植菌専用の銚を装着したドリルで、上下左右約10cm間隔で穴をあけます。



開けた穴に種駒を入れ、木槌でトンカン打ち込みます。45本の榎木に1,200個の種駒を打ち込みました。



種駒を打込んだ榎木を、榎木置き場に井桁に組んで寝かせ、記念の一枚。



乾燥しすぎないように寒冷紗でカバー。



ベニカミキリ発見。体長は2cm位です。幼虫は枯れ竹の中で育つようですから、神於山の環境は繁殖には最適です。

- 出来上がった榎木は45本ですが、榎木用の原木は、まだ20数本ありますから、次回も植菌を行います。
- 植菌した榎木に菌糸が十分に回ると、本格的な収穫期に入る来年の秋以降、かなりのシイタケが収穫できる可能性が有ります。
- シイタケは健康に良く、採れたても美味しいですが、干しシイタケにするとさらに旨味が増しますから、今後神於山シャープの森の特産品になるかもしれません。楽しみです。